

## 説教余滴 2020 年 8 月 9 日 《ディサイプルス教会》

アメリカで 19 世紀初頭に、長老派の牧師バートン・ストーンが、長老派教会から分離・独立し、ケンタッキー州にクリスチャン・チャーチ (Christian Church) を設立。他教派の信者に聖餐を提供したことを咎められたことが契機となりました。

また時と場所を同じくして、トマス・キャンベルが 1809 年に著書『ワシントン・クリスチャン協会の宣言および提言』で「教会は聖書に帰らなければならない。イエス・キリストの教会は一つである」と主張し、さらに息子のアレグザンダーとともにブラッシュラン教会を結成しました。

ストーンとキャンベル親子の三者間で改革運動の方向性が一致すると、1832 年、両団体はディサイプルスとして合同し、運動を進めることとなります。1849 年にはシンシナティで全国大会を開催し、聖礼典を浸礼によるバプテスマと日々の聖餐式の 2 つに決めた。以上の運動をまとめて「聖書復帰運動」(「バートン・キャンベル運動」)と呼んでいます。

1875 年に大会の決議で、外国クリスチャン伝道協会 (FCMS) を設立し、海外宣教を始めます。FCMS はジョージ・T・スミス夫妻、チャールズ・E・ガースト夫妻を最初の宣教師として派遣。そして、1888 年 5 月秋田県を中心に伝道活動を開始する。スミス夫人が日本で亡くなったことを記念してアメリカ本国で献金が集められ、それを元に 1892 年、現在の日本基督教団秋田教会の会堂が建てられました。ガースト宣教師は、1898 年に日本で死去、青山霊園に眠ります。なお、今日の日本基督教団の東北の教会はディサイプルスの流れを汲む教会が多い (秋田教会、新庄本町教会など)。合計 53 名の宣教師が来日し、秋田、山形、宮城、福島、東京、静岡、大嵩 (大阪の間違いか) に教会を形成しています。

1893 年秋には、ハーヴェイ・H・ガイ博士が来日し、1903 年、東京駒込に聖学院神学校 (現・聖学院大学) を設立し、日本人による伝道者の育成を目指しました。